

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>



= 今号の目次 = 第15回研究大会総会・特集

1頁 協議会メール

2頁 市民公開講座まとめ
基調講演まとめ

3頁 行政説明まとめ
分科会まとめ

「管理運営」

「虐待・人権問題」

「保育・看護の質の向上」

4頁 分科会まとめ

「食育の問題」

基礎研修まとめ

5頁 総会議事録

6頁 総会議事録

7頁 総会議事録

8頁 第16回全国病児保育研究大会紹介

協議会メール

第15回全国病児保育協議会研究大会 in 岡山を終えて 第15回全国病児保育協議会研究大会会頭 青木 佳之

今冬期は例年になく寒さが厳しいですが、皆様におかれましては、病児保育活動に日々情熱を燃やされていることと思います。今夏期には岡山での研究大会に、全国各地からご参加いただきありがとうございました。皆様のご協力のもと、おかげをもちまして無事終了することができ、深く感謝いたします。

さて、第15回全国病児保育研究大会は約850名の参加をいただき、平成17年7月17日(日)・18日(月祝)の二日間にわたり岡山シンフォニーホールとホテルグランヴィア岡山で開催されました。主テーマは「地域で子どもたちが健康で輝いた生活を送るための環境づくり」でサブテーマとして「少子高齢社会での未来を開く 病児保育 家庭・地域・関連機関の役割」が掲げられました。テーマの決定に際しては、今日の日本社会で、子どもたちを取り巻く環境は、健康上の問題や日常生活上の問題だけでなく、地域や家庭における虐待、犯罪、育児放棄、人権問題、関連サービス機関の問題など、社会環境からくる問題が山積みしています。その中で、病児保育に関連する健康問題、保育問題、保護者の仕事の問題、地域の子育ての問題、少子高齢社会の問題などに少しでも対応できれば意義ある研究大会に成すものと考えました。

この主旨にそって、市民公開講座には、日本子どもNPO常任理事で川崎医療福祉大学特任教授の佐々木正美先生に、「地域で子どもが健康で幸福に育つための環境づくり」についてその課題と展望の講演をしていただき、多くの市民の参加もありました。また、基調講演では内閣府少子・高齢化対策第一担当参事官の増田雅暢先生に「少子化社会対策の現状と課題」について、当協議会顧問の帆足英一先生には「必携・新病児保育マニュアル」の主要な改訂点について、それぞれ講演をいただきました。シンポジウムでは主テーマに基づき、国の立場から衆議院議員 熊代昭彦先生、水島広子先生、行政の立場から岡山県副知事 内野淳子先生、教育の立場から 佐々木正美先生、病児保育の立場から 当協議会会長の藤本保先生、保育園の立場からききょう保育園園長 山田静子先生、利用者の立場から日本女医会会員 野原理子先生にご発表いただき、活発な意見交換もおこなわれ、盛大なうちに初日の研究大会を終えることができました。尚、講演会場とは別に、全国各施設の取り組み報告としてパネル展示を行いました。

初日の研究大会終了後の懇親会にも、約300名の参加をいただき、にぎやかに且つ華やかに開催されました。懇親会での岡山の地方色を出し

た備中こども神楽は、伝統を大切に引き継ぐ子どもたちの姿に感動したものです。また、多くの先生方との交流・親睦も図れ、ネットワークの輪が広がったことと思います。

大会二日目は大会会頭講演として「病児保育とそれをとりまく社会環境～連携と課題～」を講演させていただきました。それに引き続き、厚生労働省母子保健課課長 佐藤敏信先生に「少子対策における病児保育の課題と期待される役割」について講演をいただきました。その後、管理運営 リスク管理・感染対策 家族・地域関係 保育・看護の必要性和質の向上 食育について 遊び・レク活動実績の6テーマで分科会を行い、実践での活動・課題等が報告され、予定の時間では収まりきれないほどの活発な意見交換が行われました。この活力を研究大会後に活かされていることと思います。分科会終了後はステップアップ研修、基礎研修を研修委員の先生方が企画され、保育・看護の質の向上につなげられる研修となっていました。

この全国研究大会を振り返り、多方面の先生方よりご講演、ご発言をいただき深く感謝いたしております。また、協議会の先生方、事務局スタッフにご尽力賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。

市民公開講座まとめ

「地域での子ども達が健康で輝いた生活をおくるための健康づくり」
～親のこころ・子のこころ～

講師：川崎医療福祉大学
特任教授 佐々木正美 先生
座長：全国病児保育協議会
名誉会長 保坂 智子



その一生を一途に小児精神医学に取り組んで来られた先生のご講演はご温容の中に溢れる子ども達への愛情と真摯な学問的な取り組みに裏打ちされ、一同の感銘をさそった。未熟な23才で旧制医学部を卒業して医師免許を授かった私は6年間働いてから入学された先生のご意志を思い、そして研究を重ねその道で高名な大学の研究機関ノースカロライナ大学(チャペルヒル校)医学部精神科に留学

され、TEACCH部で自閉症の臨床に関する共同研究をされた一途さ、1988年に同大学より業績賞を受けられ、今尚同大学の非常勤教授をつとめておられるご努力を思った。

因みにTEACCH部は「Treatment and Education of Autistic and related Communication Handicapped Children」自閉症児及び関連するコミュニケーション障害の子ども達の治療と教育の優れたプログラムとして世界中に広められている。

又、先生は近年は要請をうけて毎週のように保育士さん達と「子育て」について座談会や懇親会

をもたれて地域に根ざした子育て支援を応援し大切にされておられるとのことで保育士さん達の信頼も厚い。1.自己実現と自己中心の間で 2.人間関係とコミュニケーション 3.子供が求める愛の多様性 4.家庭 家族の意義、母性性と父性性 5.村中の人々の智慧と力 育児の原動力等のテーマを柱として話をすすめられた。「誰かを幸福にすることが自分を幸福にすることです」「よろこびを共有し合い、あなたの喜びが私の喜びです」と言えるようにと話され、レジメの一言一言が心に残った。

又、資料として日本青少年研究所 高校生の意識調査を米国、中国、韓国、日本と比較して示され、「親への尊敬」「自由を主張する気持ち」「自分の親を誇りに思う」等で日本の高校生の極端に自己中心的な憂うべき結果を示された。

基調講演まとめ

基調講演1

「少子化社会対策の現状と課題」

講師：内閣府少子・高齢化対策第一担当
参事官 増田 雅暢先生

基調講演2

「新病児保育マニュアル」

講師：全国病児保育協議会
顧問 帆足 英一先生
座長：第15回全国病児保育研究大会
会頭 青木 佳之

第15回全国病児保育研究大会において、内閣府少子・高齢化対策第一担当参事官の増田雅暢先生から「少子化社会対策の現状と課題」について、当協議会顧問の帆足英一先生から「必携・新病児保育マニュアルの主要な改定点」について基調講演を賜りました。

増田先生は内閣府の立場から以下のことを述べられました。平成7年のエンゼルプラン、平成

12年度の新エンゼルプランは、保育関係事業の計画的整備にあつたが、平成15年からは、少子化社会対策基本法の制定、平成16年の少子化対策大綱を示し、従来の保育関係への取り組みから、こども・子育て応援プランと広範囲の取り組みが内閣府より示され、画期的なものとなり、子育てと仕事の両面からの取り組みが示されました。その中で病児保育の重要

性が示されました。

また、帆足先生は、平成9年の「病児保育マニュアル」の果たした役割を述べられ、平成12年の「新・病児保育マニュアル」の大幅な改訂版の意義も述べられました。それに引き続き、平成17年の「必携・新病児保育マニュアル」の主な改訂点として、内容的に第1部「病児保育の概要」、第2部「病児保育における保育看護」、第3部「事業開始から運営まで」、第4部「病児保育室の実態」の4部構成として、利用しやすい構成にされたことを示されました。

両先生の大きな基本的方向性と考え方、取り組み方の中で、病児保育を实践される施設や職員に力強い自信を持たせたご講演だったと思います。

行政説明まとめ

「母子保健のあゆみと病児保育」

講師：厚生労働省雇用均等・児童家庭局
母子保健課 課長 佐藤 敏信 先生
座長：全国病児保育協議会
会長 藤本 保

はじめにわが国の母子保健水準を示すのに新生児・乳児死亡率、周産期死亡率の国際比較を示し、母子保健の歴史を詳しく説明されました。私は、この講演でわが国では昭和初期から母子保険事業が行われていたということを知りました。そして、現在の世界に冠たる母子保健水準になったのは、やはり戦後の施策によるものであり、昭和50年代以降が大きく寄与していることを知りました。最近の母子保健行政のお話では、少子化が最重要課題であるこ

と、児童虐待やこどもの心の問題が注目されているということでした。病児保育に関しても、乳幼児健康支援一時預かり事業の歴史・沿革を示し、今日までの行政としての取り組みを説明されました。最近の動向として、新エンゼルプラン以降の施策を説明し、平成16年度実績では全国496箇所です本事業が実施されていること、今後1500箇所に増加させることなどが示されました。

我々にとって、最大の関心事であった平成17年度からの「次世

代育成支援対策交付金」所謂ソフト交付金についての詳細かつ具体的説明がありました。要約しますと、使用目的が限定された交付金であり、通常の地方交付金とは異なるが、その運用は地方自治体であり、国から単科を示すということではないということです。実施市町村の自主性が重んじられる訳です。従って、私達は、それぞれの実施市町村に対してしっかりと要求して行かなければならないということです。ただし、国としても何らかの形で本事業の推進に努力することです。最も高いポイントが設定された事業ですのでそれに見合うよう、他に流用されないよう、情報交換を密にし、それぞれの自治体の運用を監視していきましょう。

分科会報告

「管理運営」

座長：なずな病児保育室

院長 前田 敏子

病児保育研修大会での分科会、管理運営（地域連携・行政とのかわり）を報告します。広い会場に多くの参加者がありました。制約のある時間のなか、濃い内容の演題ばかりでした。全国から集まった病児保育への熱い思いをもった方からの活発な質疑応答がありました。

演題1は私たちの報告で、アンケート調査をすることにより利用者の要望をつかみ反映させるとともに、名古屋市への粘り強いはたらきかけをしたことでした。

演題2は大阪での近隣の保育園

などへの大規模なアンケート調査の報告。病児保育の認知度が意外に低いとのこと。料金、院内感染への要望や子育てに悩んでいる親への対応など、病児保育がもたらされていることことが明らかにされ今後の展望のみられる報告でした。

演題3は大阪での院所をこえてスタッフが交流することによる悩みの共有化と交流の報告。そのなかで記録用紙改善にむけての取り組みが報告されました。今後の継続の望まれる報告でした。

演題4は行政との連携が円滑に

なされることにより、病後児保育がうまく運営されている報告でした。やはり、行政の力は大きくこのような連携のなかで病児保育をやりたいものです。演題5はセンター方式での病後児保育室の報告でした。医師のいない病後児保育室において、細心の注意をしながら、工夫を重ね、研修によってレベルアップをされている様子が伺えました。

各院所がさまざまな困難のなか、よりよい病児保育をしたい、少しでも利用する親の希望にそいたい、親を支えたいとの思いが伝わってくる内容でした。次々と質問・意見のあるところを時間的制約で打ち切らざるをえなかったことはとても残念でした。

「虐待・人権問題」

座長：ますだ小児科・病児保育室バンビ

院長 増田 宏

健生病児保育室ほっとルーム(石川県):利用者アンケートによる利用者に意識調査を行ったとこ

ろ、利用前は否定的(不安)な方も、利用後は全て肯定的(安心)な考えに変わった。満室のためお断り

することが多く、定員増加の要望が多いため金沢市に補助金増額の働きかけを行っている。

こぐま福祉会こぐま子どもの家(福岡県):不登校の兄に手がかかるため弟がネグレクトに近い状態になった。その弟のケアを病児保育室で行った。半年ほどの経過で、

父母とのかかわり、同世代の子ども達との交流が改善した。

八尾徳洲会総合病院小児科(大阪府):同院小児科には、自閉症やADHDなどの軽度発達障害児が通院している。その子ども達が病児保育室を利用したときの対応



について紹介した。隔離が必要なケースもあるが、集団保育が可能なケースもあり、その子にあった対応が大切である。

おやま城北クリニック(栃木県):栃木県における重症障害児の在宅医療の現状を報告した。患児やその家族は多くの支援を必要としているが、実状は不十分である。また医療的なサポートと同時に発育発達についてのサポートも必要である。派遣型病児保育などでの対応ができないだろうか。

中部学院短期大学すずらん病児保育園:一昨年より子育て中の保

護者を対象にすずらん保健室を開設し、地域保健活動をはじめた。これからの病児保育室は子どもを預かるだけでなく地域の子育て支援の場として重要である。様々な職種の講師による講演は、保護者だけでなく、病児保育室の保育士・看護師にとっても良い勉強の場になることでしょう。

光久福祉会池尻保育園(大阪府):狭山市の子育て支援の理念について紹介した。一人一人の個性を大切に豊かな心の子どもを育てましょう。

「保育・看護の質の向上」

座長:八尾徳洲会総合病院薬剤部

神原 永長

大会第2日目 10:40~11:30の分科会(B-)「保育・看護の必要性と質の向上」のセッションはB会場にて5演題の発表報告がありました。用意された200席はほぼ満席となり大盛況であった半面、途中で立ち見の方もおられ大変ご迷惑をお掛け致しました。

岡山県立早島養護学校の木下一枝先生からは、母親の立場として見た病児保育の必要性をご自分の経験をふまえて報告していただきました。

岡村一心堂ハート病児保育室の田中静子先生からは、病児保育室という特殊な環境・空間の中で看護師、保育士の専門家として鋭

い観察力の必要性の提唱がありました。

まずだ小児科病院・病児保育室「バンビ」の広住昭子先生からは、小児科に隣接しているという環境を利用して、保育士が医療現場で診療介助することで医療のノウハウを経験し、医療に関するスキルアップが出来たという報告がありました。

城東こどもクリニック病児保育室「ことりの森」の佐藤誠子先生からは開設時に作成した「保育計画」をより具体的・実践的に検討し、預かる子どもの日頃の環境に即したニーズにあった「新・保育計画」作成の報告がありました。

青木内科小児科医院・山陽ちびっこ療育園の田村宏子先生からは「有病児ケアマネジメント」を、事例をあげて報告があり、他職種との情報の一元化に取り組む必要性の提唱がありました。

全体をとおして見ると、看護師・保育士の専門性を近づけるのではなく、それぞれの専門性域を広げた保育看護という新たな分野の必要性が覗えた。そういう意味での教育ツールを各施設工夫して前向きに取り組んでおられる。今後も病児および保護者にとってニーズ・クオリティーの高い病児保育を目指したいものである。



「食育の問題」

座長:河原内科・松尾小児科クリニック

院長 松尾 直光

病児(後)児を不定期的に預かっている我々に、「食事」ではなく「食育」について、考える機会を与えてくださった、本研究大会会頭の青木先生に感謝を申し上げます。

いろんな形態の施設からの発表があり、それぞれの施設での食育についての取りくみを発表して頂きました。

厨房の無い施設からは、レトルト食品などを使いながら、楽しく、おいしく食べられるように工

夫されている様子を、そして、医療機関併設型の施設からは、除去食を例に、食事を安全に提供するために、栄養士を中心に医師、看護師、保育士が連携するシステムを紹介していただきました。保育所併設型の栄養士さんからは、6施設の栄養士さんが給食部会を発足して、勉強会、マニュアルの作成など行い、お互いの資質の向上を図っているとの発表がありました。老人保健施設に併設されている施設からは、高齢者と同じ食材・

調理方法・味付けで、子どもたちが楽しんで食べることができ、栄養バランスも適正であるとの報告でした。

各施設の特徴を活かした「食育」を発表して頂きました。楽しく、安全で、栄養バランスを考えた食事、そして高齢者と同じ料理で日本食文化を継承する食事でありました。

協議会会員の熱意と、保育レベルの向上を実感することの出来た分科会であるとともに、今後の子どもたちへの食事提供に際して多くの示唆に富む内容のある発表でした。発表者の皆さん、各施設の皆さん、そしてフロアーの皆さん、ありがとうございました。

基礎研修

—「体系化された基礎研修に参加して」—

座長：エンゼル多摩

施設長 池田 奈緒子

基礎研修は、2日間の最終プログラムに関わらず、多くの参加者がとても熱心に聞き入っていました。

今回の研究大会から、基礎研修の組み立てが変わりました。従来開かれていた「保育士のための看護知識」を「看護」「看護」の2講座に分け、同じく「看護師のための保育知識」を「保育」「保育」の2講座に分けました。それぞれは、どちらを先に受講



することも出来、年度により交互に開講されるため、今回の研究大会では「看護」「保育」が開かれました。また、「看護」「保育」を終えた後のその両方の受講生を対象とした「保育看護」という講座が設けられました。今回は、新形式1年目に関わらず前回までに基礎研修を終えた方々のために、「保育看護」講座も開かれたため、「看護」または「保育」を受講すると同時に「保育看護」も受講できるようになっていましたが、本来はそれぞれの基礎を終えた方々のための「保育看護」という形になっています。また、受講時期は問われませんが、一度は受講するべく「病児保育総論」も毎年開講されます。



今回からは、基礎研修のためのテキストがあり、皆熱心にメモを取りながら、受講していました。「看護」では、内容はテキストにあるため、会場ではより分かりやすいように保育室の様子の写真を多用し、説明がされました。今大会では、「保育看護」の時間が短く、慌しくなりましたが、「保育看護」という大きな内容に対しては、より多くの時間が割かれることを希望する声が続いていました。また、小さなテーマに絞ったの分科会は、個々の問題を深く掘り下げて勉強できますが、一方、常に初心に帰るためにも、基礎研修は何度でも聞きたいという感想もありました。

第15回全国病児保育協議会 総会 議事録

日時：平成17年7月17日(日) 17:00 ~ 17:30

場所：ホテルグランヴィア岡山

一、会長挨拶(藤本保会長より)

一、議長選出

会場より立候補者がおらず、常任協議員会より二宮剛美先生を推薦。

拍手で承認された。

一、事務局より総会成立の説明

現在の加盟施設は324施設。総会に参加する施設は67施設、委任状を提出した施設は158施設、計225施設になる。これは全施設数の過半数を超えており、総会は成立する。

一、議事

(1) 平成十六年度事業報告

総務委員会(藤本保委員長より)

- ・平成16年7月17日(土) 総務委員会(ウィリング横浜)
- ・平成16年7月17日(土) 常任協議員会(ウィリング横浜)
- ・平成16年11月14日(日) あり方検討委員会(八重洲ダイビル)
- ・平成17年3月27日(日) 常任協議員会(八重洲ダイビル)

調査研究委員会(深谷憲一委員長より)

(1) 委員会開催

第2回調査研究委員会(平成16年7月17日)

議事：病(後)児保育室実態調査の報告
疾患別離要調査結果
次年度体制
調査および役割分担
その他

(2) 調査

「平成15年度病児保育事業稼働実績調査」

実施期間：平成15年4月~平成16年3月

集計開始：平成16年11月~

結果を分析し次年度調査への足掛かりとする

中間報告：平成17年3月27日(常任協議員会にて)

「平成17年度全国病児保育事業実態調査」

実施期間：平成17年6月~平成18年5月

平成17年6月中に調査フォーム、Q&Aの送付

研修委員会(木野稔委員長より)

第1回 平成16年6月20日(名古屋市)

委員長、副委員長選出、事業計画について

第2回 平成16年7月17日(横浜市)

横浜大会研修部門の進行・記録など

第3回 平成16年9月23日(東京都)

基礎研修プログラム(案)、大会実行委員会との役割分担など

基礎研修プログラム

保育、看護師のための保育知識

看護、保育士のための看護知識
 保育看護 病児保育の専門性と工夫
 病児保育総論 病児保育の理念と歴史、事業内容
 基礎研修テキストを作成・実費販売、2年で課程修了とし、修了証発行。

正副委員長会議(第1回)平成16年12月16日(大阪市)
 岡山大会会頭との打ち合わせ、横浜大会アンケート
 結果分析など

広報委員会(藤本文孝委員長より)

病児保育ニュースの年5回発行

第31号 平成16年4月25日

第32号 平成16年6月30日

第33号 平成16年9月10日 総会・研修会特集号

第34号 平成16年12月25日

第35号 平成17年2月25日

ホームページの更新 月1回をめどに更新

広報委員会の開催

平成16年7月17日 横浜

平成17年3月27日 東京

平成16年度事業報告について、拍手で承認された。

(2) 平成十六年度決算報告(藤本保総務委員長より)

平成16年度決算について 予算対比増減に対する説明

《収入の部》

事業年会費 778,000 円増：加盟施設数の増加によるもの。

雑収入 609,361 円増【新・病児保育マニュアル】・【病児保育10年のあゆみ】・【全国病児保育協議会ポスター】の収入。

その他 1,083,509 円増：第14回全国病児保育研究大会余剰金

《支出の部》

記録委員会 200,000 円減：記録委員会の活動がなかったため。

常任協議員会等会議費 592,619 円減：平成16年度は3月の常任協議員会を東京日帰りで行ったため経費削減できた。(15年度は3月の常任協議員会を大分1泊で行ったため経費がかさんだ)

旅費 233,450 円減：15年度は健やか親子21など各関連団体への出席が多かったが、16年度は出席が多くなかったため。

印刷費 725,026 円増：「新・病児保育マニュアル」を500冊増刷したため。

平成16年度決算報告について、拍手で承認された。

(3) 監査報告(井崎和夫監事より)

会計帳簿および関係書類を監査した結果、正確であることを認め、収入・支出および決算処理、平成16年度事業は適正に行われていることを証明いたします。

全国病児保育協議会 平成16年度決算報告

(収入の部)

	16年度予算額	16年度決算額	予算対比増減
前年度繰越金	2,870,842	2,870,842	
事業年会費	4,800,000	5,578,000	778,000
賛助金	130,000	609,361	479,361
入会金	300,000	418,000	118,000
研修会参加費	0	0	0
寄付	0	0	0
広告	0	0	0
雑収入	1,000,000	1,009,361	9,361
その他	0	1,083,509	1,083,509
合計	9,270,842	11,561,712	2,290,870

(支出の部)

	16年度予算額	16年度決算額	予算対比増減
研究大会補助金	1,000,000	1,000,000	0
調査研究委員会費	400,000	400,000	0
広報委員会費	200,000	200,000	0
記録委員会費	200,000	200,000	0
常任協議員会費	200,000	243,550	43,550
記録委員会	200,000	0	-200,000
常任協議員会等会議費	1,800,000	1,207,381	-592,619
人件費	200,000	240,000	40,000
旅費	200,000	488,550	288,550
消耗品費	80,000	85,389	5,389
印刷費	1,200,000	1,925,026	725,026
通信費	300,000	153,389	-146,611
ホームページ制作費	300,000	300,000	0
雑費	20,000	18,380	-1,620
合計	7,210,000	8,715,887	1,505,887

繰越金 2,840,842 5,181,749

(4) 平成十七年度事業計画

総務委員会(藤本保委員長より)

- 平成17年7月16日(土) 総務委員会(ホテルグランヴィア岡山)
- 平成17年7月16日(土) 常任協議員会(ホテルグランヴィア岡山)
- 平成17年10月または11月(予定) あり方検討委員会
- 平成18年2月または3月(予定) 常任協議員会総務委員会より運営委員会設置および各県支部設置について報告

【運営委員会設置について】

会長・副会長・各委員長・名誉会長・顧問で開催される「運営委員会」を設置する。

協議会の運営を執行していくため、『運営委員会』を設置することを常任協議員会で決定した。年2~3回開催し、各委員会からの提案なども取り入れ、話し合われる場になる。

また、現在総務委員会の実質的な活動は財務管理・会員管理・庶務(研究大会での総会等)を担当している。この活動は『運営委員会』が行うこととし、総務委員会という名称を廃止する。

現行の通り会長の元に事務局を置き、副会長3名がそれぞれ財務管理・会員管理・庶務渉外を担当し、庶務担当副会長が総会での議長が決定するまでの司会・報告を行う。

【各県支部(47都道府県)設置について】

目的：現在の協議会活動では、地方自治体への働きかけが希薄である。今後は各自治体と密接な関係を築き、病児保育の実情をより深く理解してもらおうべきで

(6)

ある。そこで、各県支部を設置し、県単位の活動を推進し行政への働きかけを実効的なものにする。

背景：三位一体改革により、従来の補助金が交付金となり、自治体によっては補助金が削減されたり、他へ流用されかねない。より多くの補助金を得るように強力に要望しなければならない。そのためには協議会を代表する格付けで交渉の方が効果的と考えられる。

活動： 行政との交渉。

交渉の結果や得た情報などは、調査委員会が年1回程度の調査でまとめ、協議会ニュースなどで結果を公表する。

協議会未加入施設への働きかけ。

協議会加入のメリットなど説明してもらえれば、加盟施設増も期待できる。

各支部へは通信費を支給する。金額は3,000円/年程度。

なお、現在ある地方ブロックと各県支部は別物である。地方ブロックは“研修会”という要素が大きい。病児保育の知識や技術の向上、各施設との交流を深めるという点で今後継続してもらいたい。

《会場より質問》

病児保育室は全国に増えているが、東北などまだまだ施設が少ない地域ではどのように働きかけていけばよいのか。

回答(藤本保総務委員長より)

仮に県に1ヶ所しか病児保育室がなくても、そこが全国病児保育協議会の県支部となっただけ、県と交渉する際に“協議会の下部(県支部)支部の代表”として交渉していただくとよい。もちろん全く加盟施設がない都道府県は空欄にするしかないが。県支部設置については、具体的な活動内容などはこれから詰めていく予定。

調査研究委員会(深谷憲一委員長より)

(1) 調査

・「平成15年度病児保育事業稼働実績調査」

本報告：平成17年7月16日(調査研究委員会、常任協議委員会にて)

運用：分析結果を調査参加施設に報告、学会誌投稿検討

・「平成17年度全国病児保育事業実態調査」

集計開始：平成18年6月～

報告：第16回研究大会にて報告予定

(2) 研究事業

・「平成15年度病児保育事業稼働実績調査」の運用検討

・調査分析プラットフォームの作成

・「平成17年度全国病児保育事業実態調査」に向けて、分析ツール(データベース)の作成

・調査研究委員会の都道府県支部への関わりについて

・病児保育実施市町村に対する補助額等のデータ開示依頼について

・ISO、第三者評価認証についての情報提供について

研修委員会(木野稔委員長より)

正副委員長会議(第2回)平成17年4月10日

(岡山市) 岡山大会の研修プログラム編成について

研修委員会 平成17年7月16日

(岡山市) 岡山大会の研修部門の進行・記録、アンケートなどを検討

平成17年9月頃

岡山大会の反省、研修プログラム・テキスト、記録集の検討

平成18年5月頃

大阪大会進行状況の確認と協力

正副委員長会議 平成17年12月頃、平成18年4月頃

広報委員会(藤本文孝委員長より)

年5回のニュースの発行(内1回は総会・研修会特集号): 6月、7月、9月、12月、3月の5回

病児保育ポスターの作成

HPの拡充・会員専用掲示板の設置、「入会のご案内」の掲載・関連の学会の情報・各ブロックや都道府県段階での取組の紹介

広報委員会開催 平成17年7月16日 岡山、平成18年2～3月予定

平成17年度事業計画について、拍手で承認された。

(5) 平成十七年度予算案

《収入の部》

事業年会費 7,000,000円

平成17年度より、事業年会費が補助受託施設: 25,000円(前年度より5,000円増)・補助未受託施設: 12,000円(前年度より2,000円増)となり、約1,500,000円の増額が見込めるため。

《支出の部》

研究大会補助金 1,500,000円

加盟施設増にともない研究大会参加者数も増え、多くの参加者を収容する施設を利用すると会場費がかかること、また、事業年会費増額により協議会収入も増え会計処理上問題ないと考えた。また今後研究大会の参加費をできるだけ軽減していくことも見込んでいます。

研修委員会費 400,000円

研修委員会では、主に研究大会における研修プログラム(基礎、ステップアップ)の企画運営、研修システムの立案を行っている。平成16年度から研究大会が全国持ち回りになったことから、研究大会事務局に出向いての協議も行っている。全委員参加による委員会および正副委員長と大会事務局との連絡会を複数回開催するための運営費および関連活動費のための前年度300,000円から100,000円増の予算設定をお願いしたい。

印刷費 3,500,000円

例年の予算1,200,000円に、【必携・新病児保育マニュアル】印刷代約2,300,000円を計上した。

平成17年度予算(案)について、拍手で承認された。

(6) その他

第16回研究大会 会頭:中野博光先生、実行委員長:木野稔先生よりご挨拶

第16回全国病児保育研究大会を平成18年7月16日(日)~17日(月)に大阪市中央公会堂にて《究極の育児支援 病児保育の安心と安全を求めて》をテ

ーマに開催いたします。

一、閉会挨拶

全国病児保育協議会 平成17年度予算(案)

(収入の部)

	16年度決算額	17年度予算額(案)
前年度繰越金	2,820,842	3,181,745
事業中会費	3,178,500	7,800,000
賛助会費	400,000	180,000
入会金	415,000	500,000
研究会参加費	0	0
寄付	0	0
広告	0	0
雑収入	1,809,381	1,800,000
その他	1,083,500	0
合計	11,807,212	13,841,745

(支出の部)

	16年度決算額	17年度予算額(案)
研究大会補助金	1,000,000	1,800,000
調査研究委員会費	400,000	400,000
広報委員会費	200,000	200,000
研修委員会費	300,000	400,000
国際委員会費	343,000	250,000
社団法人費	0	200,000
厚生労働委員会費	1,207,381	1,300,000
人件費	348,000	340,000
賃借費	488,500	800,000
消耗品費	55,380	80,000
印刷費	1,823,029	3,500,000
通信費	153,399	300,000
ホームページ制作費	300,000	300,000
雑費	18,180	20,000
合計	8,715,947	9,210,000
繰越	3,181,745	4,631,745



第16回

全国病児保育研究大会

究極の育児支援病児保育の安心と安全を求めて

本格的な人口減少時代を迎え、厚労省「子ども・子育て応援プラン」における様々な少子化社会対策は、その実効性がためされます。病児保育が子どもの安全を守り、親子に安心を与える事業として飛躍することを願って企画します。

日時 ●平成18年7月16日(日)~17日(月祝)

会場 ●大阪市中央公会堂

会頭/中野博光 実行委員長/木野 稔

プログラム

- 講演 ●「病児保育のリスクマネジメント」(帆足英一/全国病児保育協議会顧問)
- 講演 ●「究極の育児支援病児保育の課題」(藤本 保/全国病児保育協議会会長)
- 講演 ●「大学病院小児科におけるアメニティ」(金子一成/関西医科大学教授)
- 講演 ●「子どものトラウマ」(西澤 哲/大阪大学人間科学部助教授)
- 「医療の安全・安心」(辻本好子/NPO法人ささえあい医療人権センター理事長)
- ステップアップ研修 ●「あまえ療法」(澤田 敬/高知県中央児童相談所医師主任)
- 基礎研修プログラム、施設長研修、一般演題など

主催: 全国病児保育協議会 事務局: 特別医療法人真美会 中野こども病院
<http://www.byoujikoiku.ne.jp> TEL.06-6952-4778 FAX.06-6954-8621
 後援: 厚生労働省 大阪府 大阪市 大阪府医師会 大阪府女医会 大阪小児科医会 大阪府看護協会

第16回全国病児保育研究大会大阪大会への参加&演題申込は、全国病児保育協議会のホームページから申込ができます。

全国病児保育協議会事務局

〒870-0943 住所: 大分県大分市大字片島 83-7 大分こども病院気付

担当: 伊東 美紀 電話: 097-567-0050 (代表) FAX: 097-568-2970